

「とんでいつたふうせんはしを読んで

二年二組 近藤 結菜

私は、この本を読むまで、認知症というの
は、ものわすれが多くなつたり、何度も同じ
ことを聞いてきたりすることがふえてきて、
本人もまわりの家でくもつらく悲しいしよ
うじようだと思つていました。

私がこの本をえらんだのは、もし私のひい
おばあちゃんが、認知症になつたから私に何が
出来るのかを知りたいと思つたからです。ま

た、絵本の絵が可愛いと思つたのと、本屋で
はたらいているお姉さんがオススメしてくれ
たからです。

この本は、長く生きてきた数だけ、それぞ
れが色々な思い出がつまつたふうせんをどこかに
ているけれど、年をとると無いしきのうちに
大じに手にもつていたふうせんをどこかにと
ばしてしまります。ですが、ただふうせんが
どんどんで行つてしまつたわけではなくて、まわ
りの人たちだつたり、さやえてくれる家ざく

かとんで行つてしまつたら、せんと同じう
せんをもつていろがら、たとえとんで行つて
しまつてもそれは悲しいことではないという
お話をす。

一ばん心にのこつたのは、せいごにはせん
ぶのうせんをおじいちゃんばとばしてしま
つたけれど、男の子が、
「ぼくがおぼえているから大丈夫だよ。」
と言つておじいちゃんにお話を聞かせてあげ
るところです。

なぜそのばせんが良かつたかと言うと、男
の子がおじいちゃんに「うせんの中の思い出
話を一生はんめい話していくすがたにかんど
うしたからです。

「この本を読んで、これからもししいおばあ
ちゃんのもつているうせんは私がじつかりも
しまつたら、そのうせんは私がじつかりも
つて、いいおばあちゃんに、
「私がおぼえているから大丈夫だよ。」
と言つてあげたいなどと思いました。

大き。この前、みんなやさしいと思いました。みんながやさしくなってきてけんさしたと言つてたので、おんなじなのかと思つた。これでオスカーは、おばあちゃんのためにおもいのわすれがひどくなつた。おばあちゃんがもつしにひばしり楽しそうだし、えがおで、みんなやさしいるんやと思つた。わたしはこの本を読んで、みんなやさしくなつたらみんなとぎりつとしたいと思つた。すこしさみしくおなれする。わたしもオスカーがばいおてつだいをいたりつぱいおしゃべりができるといいなうから、オスカーはいばいおしゃべりができるといいなうと思つた。これで

「おばあちゃんにささげる歌」を読んで

山崎 廉武

この本は、アストリッドが主人公でアスト
リッドから視点でおばあちゃんが認知症と
いう病気になつて変わったところを書いて
る本です。

このおばあちゃんは、大ぼうけんをした
トンチンカンなことをしたり急におこ
していつも家族を困らせたり、あるいはみ
た話を笑わせたりするおばあちゃんです。

私はこれについてとても共感しました。
私もおじいちゃんもトンチンカンなことをよ
くします。例えば回転寿司に行つたときにお
寿司のお皿に、温かいお茶をかけてみんなをよ
び「くりさせました。私はこれを見て海鮮茶
漬けにしたかんたんだった。私はこれと話すと、みん
がいいました。私はおじいちゃんがしてしま
ったことでおこりたくなる時もあるけれど、
笑いに変えています。笑いをしたから
もがまんしたり、笑いに変えていきます。
でもたまに笑いをしたから笑いに変えてい
ます。そん

な時にこの本の「病気になる前のおばあちゃんがい
んを覚えていろよ」にしておばあちゃんがい
ろいろわすれても、がまん強く、やさしくし
ましょ」とママは、わたくちに言います。
わたしのおばあちゃんは、世界中で一番やさ
しいおばあちゃんです。という文章が一番印
象に残っています。おこりたくなった時には
この文章を思い出してがまん強く、やさしく
してあげたいと思ひます。
これから私は病気になる前のおじいちゃん
してくれたおじいちゃんをいつまでも忘
しくしてくれたおじいちゃんをいつまでも忘
れません。おこりそうになつても大好きなお
じいちゃんを思い出して家族全員おじいちゃん
になら前もなつてからも、おじいちゃんは大
きな家族です。大変なこともあるけれど、お
じいちゃんが笑うと家族みんな笑っていきます。
私は大好きなおじいちゃんが笑うと家族みんな笑
いていいちゃんとこれからもいいます。

なつ
できでござしてございました。一番辛い事は
ほくも元気だつたころのあはあちやんを知つ
て、いるが、5病気になつたおはあちやんと
不安に思つた事もありました。でも家族が病
気をうけとめてお互におぎがい支え合う事
が大事だと思つました。
おはあちやんの具合がだんだんわるくなり
やす。本当は泣きたい気持だけど笑うとすこし
はあちやんを家族が見えても辛い気持ち
なうと思つます。こも笑つてふきとばしてい
る家族の様子を見てスゴイと思つました。
病気になれる前のあはあちやんが、いふういふ
るようにしておはあちやんを覚えてい
もがまん強くやさしくしましょう」とママは
います。ほくも認知症や病気の人にはんけい
と思いました。ほくも認知症や病気の人にはんけい
と思ひやりを持って接する事が大切だなと思
いました。

きりとり

お会いにうどばしるくりやはたた然おす。この
 おばえ諸し事うあたたでしらが出来。おし。
 あるにまをたち。め住てなまえおばあねばお
 ちの住知けやお、いじいまとすあちなあ話
 ゃがめたアれんの杏ごまとすあちなあ話
 人渠る。てどの部屋安またけ夏やムガ
 とし事杏、部屋ににし。もなムガ大人
 のみきはおお屋ににし。もなムガ大人
 生で渠おばばになり。が今ま事に、知
 活ワしばああなる。が予越、でを冬
 はクみあちり予越、でを冬
 、ワにちやまし生お忘れ服でもたきと
 杏クじかんしんじたつ來にあこを服
 の思こしんが部認。たるる支うちし着
 ついま大屋知最部事障やまて着
 てまし好を症初屋にガんましが
 けしめたまを譲だははち生はてたえ
 るたのぞさととま、りて、しりるま、
 様が、事言まばよい一た、事し突、
 で里

